

オステンドルフ家に 新しく生まれる 赤ちゃんのための準備



USIS提供

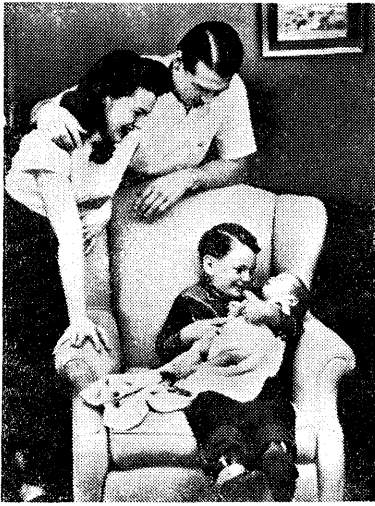
オステンドルフ家に二番目の子供が生まれることがわかったとき、両親が一ぱん心配したことは、五歳になるデュークのことでした。赤ちゃんが生れる前にデュークの心の準備をしなければなりません。どうしたらデュークもまた赤ちゃんを愛し喜ぶようになるでしょうか。

しかし、現在デュークが弟か妹を持つとうとしているときに、生れたら直ぐに家族の注意を半分うばわれてしまわなければならない子供に、両親は自分の喜びを必ずしも分ち与えるべきでないということ、本を読んだり実際に子供を観察して感じたのです。

オステンドルフ家ではデュークの他にもう子供は生れないものと思っていました。デュークが生れたとき、お医者さんは、ミセス・オステンドルフに「貴女は、もう決して子供は生れないだろう」と言ったのです。そのために彼等はカリフォルニアはバーバンクの近くの北ハリウッドに住んだのです。オステンドルフ氏は、そこで航空会社のセールスマンをしていたが、彼等は近所の大勢の子供達が、デュークのよい遊び相手になるだろうと思っていました。



現代の理論によれば、多くの子供達が、彼等の世界は、新来者によって侵害されたときに嫉妬することは自然な感情でありましょう。オステンドルフ夫妻は、子供がより多くの注意を引くために、攻撃的になったり、かんしゃを起したり赤ちゃんのようなふるまい方をしたりして意識的または無意識的に新しく生れてくる子供に対抗するための無駄な努力をしないことを望んだ。最近の児童研究書は、「両親の愛情が安定している子供は、新しく生れる赤ちゃん競争を恐れない」といっているのを思えば、オステンドルフ夫妻もまた世



間一般の親と同じように、デュークに安定した彼等の愛情を保証することが大切であると思いました。

生涯の信頼と友情の基礎をうちたてるために、彼等は新しい赤ちゃんの出生のための準備には全てデュークを関係させる決心をしたのです。オステンドルフ夫人は、新しく生れる赤ちゃんについて、デュークにわかるように話しました。彼がいつもクリスマスに聞いているキリストの誕生のお話と同じように、自然に彼が受け入れるように話して聞かせま

した。夫妻は息子に、お祈りのときには、彼等の新しい赤ちゃんを加え、——赤ちゃんをお守り下さい——と言うことを教えたのです。デュークは、今度弟が生れるか、妹が生れるかは、神さまだけが知っているということを学びました。

ある朝、デュークが小さい友達に「僕は神さまが下さるものは何でもいただくんだ。でも、僕は一緒にベースボールをして遊べるから弟のほうがいいな。」

と言っているのを、ふと耳にしました。そのとき夫妻は、新しい赤ちゃんが友達として遊べるようになるまでには、しばらく時間がかかるということに注意深く説明しました。

夫人は、赤ちゃんのものを買いにいくときは、いつもデュークを連れていきました。そして道々子供が喜ぶようなゲームをしながら歩きました。デュークもまた新しく生れる赤ちゃんのために、新調の着物を見るのをうれしがっているようでした。彼女は仕事を一人でした方がずっと早く出来たのですけれど、赤ちゃんのベットのきれいにすることを息子に

手伝わせたり、それを置く場所をきめさせたりしました。

父親は、息子に、赤ちゃんのために古い乳母車を洗ってみがくのを手伝わせました。デュークは、彼の弟か妹の名前を提案することを許されました。また夫人が病院にいる間に、父親は子供とのつながりを更に強めるために、また子供の独立心を発達させるために余暇を出来るだけデュークと共に過ごすようにしました。

赤ちゃんが病院から連れて帰られたとき、デュークの願いは本当にかなえられました。弟です。彼はヘンリー・ミッチェルについてのニュースを母親の友人達に電話で知らせることを許されました。赤ちゃんは、彼のお兄さんに喜んで迎えられたのです。

オステンドルフ夫妻は最初の歓迎は、子供達の間堅いきずなが結ばれている初めのうちだけであるということを知りました。しかし彼等は赤ちゃんの準備に小さなデュークを関与させたために費した時間と根気が無駄ではなかったのです。そして二人の兄弟の仲はしっかりとした基礎の上に立っているという

ことを感じました。(写真①から④はこのようすをうかがわせませす)。

(写真説明)

①デュークと彼のお父さんは、赤ちゃんの名前について意見をとり交している。弟か妹が出来るための準備にデュークを参加させることによって夫妻は新参者は家族の愛情から、彼を押しつけてはならないという子供の要求を保証した。

②新しい赤ちゃんと彼の部屋を一緒にするために準備することを彼が母親に赤ちゃんの寝台をここに置いたらよいと思うと示しているように、五歳のデュークは楽しんでいた。彼は赤ちゃんの寝台を準備することを手伝った。きつとあとでは、おむつ運びのような、ちょっとした簡単な仕事を手伝いたいと言いつつ出さないものである。これらは全て、彼を励まして、これは僕の赤ちゃんだと感じさせ、また彼の存在や彼の手伝いには感謝されるということを感じさせるのである。

③デュークが自慢そうにヘンリー・ミッチェ

ルを抱いているのを見つめながら、オステンドルフ夫妻は、デュークが彼の新しい弟を受け入れ、可愛がる準備がよいスタートをしていたということを感じた。

④オステンドルフ夫人は五歳の子供デュークに赤ちゃんの絵を見せている。デュークは、もうすぐ家にくる新しい赤ちゃんのお兄さんになるだろうということを話している。新しい赤ちゃんに対する個人的興味を子供に与えることによって彼女はこの弟か妹を愛し、仲よくするような者として楽しみに待つようにと彼を勇気づけるのであった。



幼児の教育 第五十六巻 第一号

◎ 定価 五十円

昭和三十一年十二月二十五日印刷
昭和三十二年一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館 にお願ひ致します。